

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 作文名人になろう ―自分の考えをつたえよう― 「自分の考えをつたえよう」(東京書籍 3年下)

2 単元設定の理由

本学級の児童は、自分の思いを伝えたい、聞いて欲しいという思いが強く、積極的に自分の思いを指導者や友達に伝えようとする子が多い。一方で、伝えたい思いはたくさんあっても表現方法が分からず、うまく伝えられないことにもどかしさを感じている子や書くことに対して苦手意識をもっている子が多いように見受けられる。4月から、指導者が集めた詩や短いお話などを学校や家庭で毎日音読したり、学習ビデオの視聴や朝会での校長先生の話で聞き取ったことの要点を記録したりと、語彙を増やし、書くことを習慣付ける活動を少しずつ行ってきた。また、定期的にテーマ作文やお世話になった方へのお礼の手紙を書いたり、オノマトペを用いて様子を詳しく書き表す学習をしたりして、書くことに楽しさを感じている子が少しずつ増えてきているように感じる。しかしながら、伝えたい内容を絞ったり、最も伝えたいことを分かりやすく表現したりすることに課題がある。話題について、自分の考えが読み手に伝わるように理由を明確にして文章を書く活動は、実生活において、相手意識・目的意識を明確にもって自分の考えを豊かに書いたり話したりするために重要なことだと考え、本単元を設定した。

本単元では、児童の身近なテーマに対して自分の考えを文章に書き表し伝えることを主たる言語活動とする。「夏休みに行くなら海かプールか」「お昼ご飯は給食がよいか弁当がよいか」のような、身近で興味をもって取り組めるテーマを設定することで、子供ならではの視点から多様な理由が出されるであろう。それらを比較・分類・整理していくことで、自分の一番伝えたいことを絞り、相手に分かりやすく伝えようと様々な工夫ができることに気付くことができる。また、書いた文章を賛成・反対両方の立場から読み合うことで、説得力ある表現の仕方に気づき、今後の自分の考えを述べる場に生かしていくことができると考える。

本単元では、教科書教材「山下さんの文章（お礼の気持ちを伝えるには、手紙がよいか電話がよいか）」をモデル文としながら、その文章のよさを取り入れて7月に書いた作文「夏休みに行くなら海かプールか」をリライトする活動を行う。その後、学んだことを生かして新たなテーマで個々にもう一つ文章を書く活動を設定した。7月作文では、ほとんど事前の指導を行っていない。楽しんで書いていることが伝わってくるが、選んだ考えに対する理由が不十分で、読み手を意識して順序立てて書くことに課題がある。しかし、子供ならではの視点から経験を交えて書いたり、分かりやすく事例を挙げて書いたりして説得力ある書き方ができている児童もいる。それらの児童作文を単元導入時に取り上げ、よさや改善できそうなところを見つけて自分の文章を書き換えさせることで、具体的な目標をもてることが期待できる。また、一部の変更だけでよいことから、書くことに対する苦手意識を和らげ、自分の書いた文章を読み返し推敲する習慣付けにもなると考える。その後、自力でもう一つ新たなテーマで書くことにより、学んだことを反復しながら書き、書く力の定着を図っていききたい。

第1次では、7月に書いた児童作文を読み合い、自分や友達の文章を読み比べる。説得力のある文章を選び、その理由について話し合う活動を通して、自分の文章のよさや課題点について考え、自分の考えを明確に伝え説得力ある文章を書こうとする目的をもつ。第2次では、児童のテーマ作文に加え、教科書教材「山下さんの文章（お礼の気持ちを考えるには、手紙がよいか電話がよいか）」を取り上げ、構成や理由、事例の書き方などの工夫を見付け、その効果について考えていく。見付けた工夫点を取り入れて、自分のテーマ作文をリライトしていくモデル学習に取り組む。第3次では、第2次で学習したことを生かし、身近な話題について、各自で自分の考えを伝える文章を書く個別学習に取り組む。第4次では、友達の文章を読んだ感想を交流する場を設ける。自他の表現や

考えのよさに気づき、自分の考えを分かりやすく相手に伝える文章を書いたり話したりする態度へと誘いたい。

3 単元の目標

(1) 子供の活動目標

自分の考えとその理由を明らかにして、読み手を納得させる文章を書こう。

(2) 指導目標

- 考えとそれを支える理由との関係について理解できるようにする。 「知識及び技能」(2)ア)
- 自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」(B(1)ウ)
- 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」(B(1)オ)
- 言葉がもつよさに気付くとともに、自分の思いや考えを進んで伝え合おうとする態度を育てる。 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由との関係について理解している。(2)ア)	① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ② 「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ)	① 進んで自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にし、見付けた自他の文章のよさを取り入れて、学習の見通しをもって読み手を意識した構成や叙述を工夫して自分の考えたことを書こうとしている。

5 指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<p>【第1次】</p> <p>○ 7月に書いたテーマ作文「夏休みに行くなら海かプールか」の児童作文のうち、海派・プール派それぞれ2点ずつ四つの文章を読み比べ、それぞれの表現の違いや説得力ある点について話し合う。自分の文章と比較させ、さらに分かりやすく説得力ある文章に書き換えたいという目標をもたせ、単元の学習の計画を立てる。</p>	<p>◇ 7月に書いた児童作文のうち、海派・プール派それぞれ、選んだ理由を明確に書いているものを四つ取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラス面を多く書いている。 ・自身の体験を入れている。 ・選んでいない方のマイナス面を書いている。 ・「例えば」と事例を挙げている。 <p>◇ 四つの文章のよいところだけでなく、構成や叙述などさらに工夫できそうな点についても目を向けさせることで、よりよい表現について考え、リライトしたいという意欲を高める。</p>	<p>〔思・判・表②〕 発表・学習の記録 文章の工夫しているところに関する発表内容と、自分の文章の課題点を綴った学習の記録の内容を確認</p>

2	<p>【第2次】</p> <p>○ 第1次で話し合ったよさと、教科書教材「山下さんの文章（お礼の気持ちを伝えるには、手紙がよいか電話がよいか）」のよさについてまとめ、自分の7月作文を書き換えるモデル学習に取り組む。</p> <p>・「山下さんの文章」のよさを、構成や理由の数、事例、つなぎ言葉や文末表現の工夫等でまとめる。</p> <p>・「海かプールか」で、自分の考えを支える理由を比較・分類し、精選する。説得力ある理由を見直し、理由を変えたり詳しく書き加えたりして、組み立てメモを作る。</p> <p>・組み立てメモをもとに、読み手に分かりやすく説得力をもって伝えられるように、理由を述べる順序やつなぎ言葉を工夫して文章を書く。</p> <p>・完成した文章を読み合い、感想を交流する。</p> <p>※第3次のテーマについて、自分の立場を決め、理由に関する情報を集めることを並行して行う。</p>	<p>◇教科書教材の「山下さんの文章」</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由書き出しメモ・組み立てメモ等をまとめたワークシートを作成し、それらのよさを書き込めるようにする。 <p>◇7月の自分の作文からどのように変化したかが分かるように、右側に児童の文章を打ち込んだワークシートを用意する。その際、行間に加除修正できるスペースを作っておく。</p> <p>◇選んだ理由を考える際に、意見共有アプリを用いて、他の児童の文章や考え（同じ立場・反対の立場両方）を読めるようにする。</p> <p>◇二つのことを多角的に考え、比較できるように、観点別にそれぞれのよさや特徴を表にまとめる。</p> <p>◇順序立てて書くときに使う言葉や理由を明確にする言葉を使うよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由は〇つあります。 一つ目は～、はじめに～ なぜなら～ その理由は～からです。 これらの理由から～ など <p>◇賛成・反対両方の立場の人と読み合い、説得力ある理由や事例の取り上げ方などを見付けさせる。</p>	<p>〔知・技①〕 ワークシート 理由をまとめた組み立てメモの内容を確認</p> <p>〔思・判・表①②〕 ワークシート・発表表・学習の記録 自分の考えに説得力をもたせた理由となっているか確認</p> <p>〔主①〕 ワークシート・児童が書いた文章 自分の考えと理由を明確にして書いているか確認</p>
8	<p>【第3次】</p> <p>○ 第2次で学んだことを生かし、新テーマ「お昼ご飯は給食がよいか弁当がよいか」について個別学習に取り組む。</p>	<p>◇モデル学習を想起しながら個別学習ができるように、文章を書く順に沿ってこれまで見付けてきた要点をまとめた、書き込み型の手引きを用意する。</p>	<p>〔思・判・表①〕 児童が書いた文章 理由を明確にし工夫しているか確認</p>
10	<p>【第4次】</p> <p>○ 書いた文章を読み合っって感想を伝え合い、これまでの学習を振り返る。</p>	<p>◇読み合う際の観点を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由と事例の取り上げ方 「なぜなら～」「その理由は～」「一つ目は～」などの言葉を使っているか 	<p>〔思・判・表②〕 ワークシート 友達の文章の工夫しているところを記述したワークシートの内容を確認</p>

6 本時(4/全10時間)

(1) 目標

①子供の活動目標

読み手を納得させるのに大事だと思う理由を選び、詳しく書き加えよう。

②指導目標

考えを支える理由を整理し、自分の考えに説得力をもたせることができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準	評価方法
5分	1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。	1 前時に分類整理したした海・プールそれぞれのよさや特徴の表を見て、数が多すぎることに、「山下さんの文章」では二つに理由が絞られすっきりとした文となっていたことを思い出させ、これらの中からより説得力ある理由を選んでいくことを確認する。		
読み手をなっとくさせるのに大事だと思う理由をえらび、くわしく書きくわえよう。				
15分	2 「波」という観点から、それぞれのよさを事例を挙げて詳しく理由を書き加えていく。 ・予想できない波の動きが面白く、波にダイブして遊ぶなど、いろいろな遊びができる。 ・波が無いと、遠くまで流されたり溺れたりすることがないので、安心して楽しめる。 ・高い波が来て怖かった経験があるので…	2 一方ではデメリットと捉えられるようなことであっても、事例を付け加えることで、説得力が増すことに気付くことができるようにする。例として一つ取り上げ、全体で話し合っって理由を詳しく書き加えていく。 ○よさをイメージしやすいように、海とプールの「波」に関連する写真を複数枚提示する。 ○メリットとデメリットの対比が分かるように、色分けや上下に分けて板書する。 ○「波」以外の観点でも、同様に詳しく事例を挙げて説明すると説得力が増すことを確認する。例えば、「生物のよさと危険性について両方の面があるけれど、相手を納得させるためには、どうすればよいか」と問いかけることで、詳しい事例の必要性に気付くことができるようにする。 ○「詳しく書く」には、一方にしかないよさを、体験やオノマトペ、五感を用いた表現、反対意見の使い方などを工夫し取り入れるとよいことを確認する。		
10分	3 たくさんの理由の中から、特に大事だと思うものを2～3個程度に絞り、そのうちの一つを事例を挙げて詳しく書き加えていく。(残りは次時で)	3 意見共有アプリを用いて、事例を挙げてよさを詳しく書いている児童の文章を紹介したり、書き出しの例を提示したりして、参考にするよう助言する。 ○組み立てメモが書けるワークシートと、より説得力を高める表現方法の	事例を用いて、説得力ある理由を書いている。	ワークシート

		例をまとめた手引きを用意する。		
5 分	4 書き加えた理由を小グループ(反対の立場の児童を含めた3・4人)で交流する。	4 自分の考えに説得力があるかどうかを、同じ・反対の立場それぞれから意見を聞くようにする。		
5 分	5 全体で、説得力ある理由が書けていた子を紹介する。	5 表現上の工夫や視点のよさなどについて気付いたことを発表する際に、話型を提示する。 ・私は立場は違うけど、「○○」と書かれていると、なるほどと思いました。 ・同じ観点を選んだけれど、そういう面も確かにあるなと納得した。 ・経験したことを入れていると・・・ など		
5 分	6 他の児童の考えを踏まえて、自分の考えを読み返すとともに、学習の振り返りを書く。	6 必要があれば自分の考えを加除修正するように指示する。		

(3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	自分の考えを支える理由を整理し、一方にしかないよさや特徴を入れて説得力をもたせた理由を書いている。
「おおむね満足できる」状況にするための手だて	体験したことや友達が考えた理由で取り入れたいと感じたものを参考にして書くように助言したり、書き出しの例を提示したりする。